Express5800/MW300e

はじめにお読みください

NEC

Startup Guide

スタートアップガイド

856-126855-004-00　2007年4月　初版

箱を開けてから本装置の初期設定を完了するまでの手順を説明します。このスタートアップガイドに従って作業してください。

⚠ 安全に関するご注意

装置をセットアップする前に「ユーザーズガイド」の「使用上のご注意　-必ずお読みください-」をお読みの上、注意事項を守って正しくセットアップしてください。

⚠ 警　告

- ぬれた手で電源プラグの抜き差しをしないでください。感電するおそれがあります。
- 内蔵型オプションの取り付け・取り外しは電源コードをコンセントから抜いて行ってください。
- 雷が鳴り出したらケーブル類を含め装置に触らないでください。落雷による感電のおそれがあります。
- 「ユーザーズガイド」に記載されている内容を除き、分解・修理・改造を行わないでください。

⚠ 注　意

- 持ち運びの際は2人以上で装置の底面をしっかりと持って運んでください。
- 水、湿気、ほこり、油、煙の多い場所、また直射日光の当たる場所に設置しないでください。
- 装置に添付されている電源コード以外を使用しないでください。
- 電源コードは指定の電圧、コンセントに接続してください。
- 電源コードはタコ足配線にしないでください。

1 添付品を確認する

梱包箱を開け、添付品がそろっていることを確認してください(ご注文の構成により、下記以外の添付品が同梱されている場合があります)。

- 本体
- 電源コード
- フロントベゼル
- セキュリティキー(フロントベゼル内側に貼り付けられています)
- ラック搭載用取り付け部品(ステップ4を参照)
- ソフトウェアパッケージ一式(バックアップCD-ROM含む)
- EXPRESSBUILDER CD-ROM*
- SystemGlobe DianaScope Additional Server Licence(1)(DianaScopeのライセンス)
- お客様登録申込書
- 保証書(本体梱包箱に貼り付けられています)
- 使用上のご注意
- スタートアップガイド(本書)

重要　添付のCD-ROMおよびフロッピーディスクは、再セットアップの時に必要となりますので大切に保管しておいてください。

* EXPRESSBUILDER CD-ROMの中には「ユーザーズガイド」や各種オンラインドキュメントも格納されています。ユーザーズガイドやオンラインドキュメントはAdobe Readerで閲覧できるPDFファイルです。

2 ユーザーズガイドを読む

ユーザーズガイドはバックアップCD-ROMの中に格納されています。ユーザーズガイドはAdobe Readerで閲覧できるPDFファイルです。

<バックアップCD-ROM>:/nec/doc/mw300e_ug.pdf

ユーザーズガイドでは、本装置を安全に取り扱うための注意事項や*Startup Guide*では記載されていないセットアップに関する詳細な説明、運用やアップグレードに関する説明が記載されています。また、「故障かな?」と思ったときのトラブル回避の手段やサービスに関する情報も記載されています。本装置を取り扱う前にぜひお読みください。

ヒント　PDFファイルを閲覧するためには、Adobe Reader 日本語版が必要です。Adobe Readerはアドビ社のWebサイトから無償でダウンロードすることができます(http://www.adobe.co.jp)。

製本されたユーザーズガイドが必要な場合は、もよりの販売店、またはお買い求めの販売店にお問い合わせください。また、ユーザーズガイドは、NECのWebサイトからダウンロードすることができます(http://nec8.com/　→　[サポート情報]をクリックしてください)。

3 ラックを設置する

本体はEIA規格に適合した19型(インチ)ラックに設置して使用します。ラックに設置する場合は、次の条件を守ってラックを設置してください。

重要　ラックの設置は必ず複数名で行ってください。

4 本体を設置する

本体をEIA規格に適合した19型(インチ)ラックに設置します。(プラスドライバ・マイナスドライバが必要)

取り付け部品の確認

① マウントブラケット
② マウントホルダー(L)
③ マウントホルダー(R)
④ サポートブラケット
⑤ エクステンションブラケット
⑥ フロントベゼル
⑦ コアナット
⑧ ネジA(M4, 6mm)
⑨ ネジB(M3, 6mm)
⑩ ネジC(皿ネジ, M3, 6mm)
⑪ ネジD(M5, 10mm)

作業の流れ

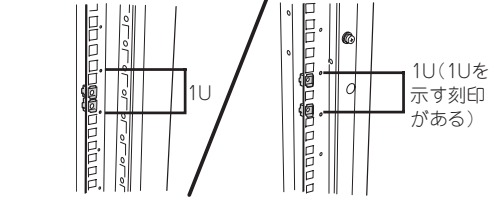
① マウントブラケットの取り付け
② マウントホルダーの取り付け
③ コアナットの取り付け
④ サポートブラケットの取り付け
⑤ 本体の取り付け
⑥ 本体の固定
⑦ フロントベゼルの取り付け

重要　ラックの設置や本体の取り付けは必ず複数名で行ってください。

1 マウントブラケットのネジ穴と本体側面のネジ穴を合わせ、ネジA(各2本)で固定する。

2 ネジB(各1本)でマウントホルダーを取り付ける。

* それぞれのエンボスをボス穴にはめ込んでください。

3 本体を取り付ける位置(高さ)を確認してからコアナットをラックフレームのスロット(角穴)に取り付ける(前面/背面とも片側に2個ずつ)。

ラック前面(1U間にある3つのスロットのうち上下と中央の2つに取り付ける)　ラック背面(1U間にある3つのスロットのうち上と下に取り付ける)

* コアナットはラック内側からマイナスドライバなどでコアナットのクリップをスロットに引っかけてください。

4 <ラックの奥行きが700mm以上の場合のみ>

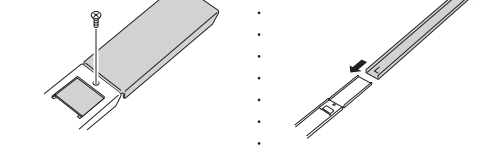
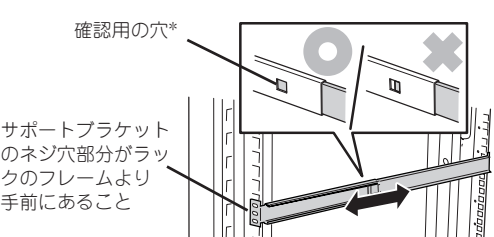
① マウントブラケットを引き延ばし、分解する。

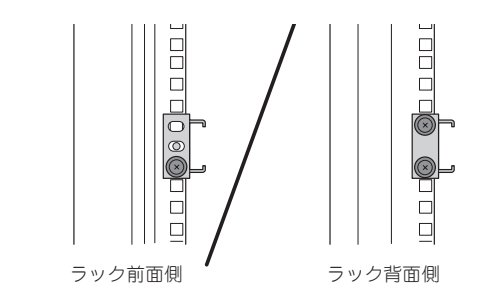
ブラケットB(マウントブラケットの内側のブラケット)
ブラケットA(マウントブラケットの外側のブラケット)

② エクステンションブラケットをブラケットBに差し込む。

ツメに引っかかるまで差し込む

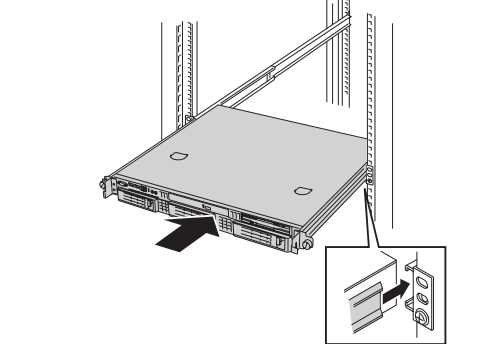
③ エクステンションブラケットをネジC(1本)で固定する。

④ ブラケットAをエクステンションブラケットに差し込む。

5 コアナットを取り付けた位置にサポートブラケット前後のフレームを合わせる。

* サポートブラケットの連結部分にある穴がもう一方のサポートブラケットでふさがれていることを確認してください。少しでも隙間がある場合は、エクステンションブラケットを取り付けてください。隙間が見える状態ではサポートブラケットの連結部分の強度が維持できません。力が加わると連結部分が外れてしまうおそれがあります。

6 サポートブラケットを支えながらネジD(左右各3本)で固定する。

- コアナットのネジ穴がサポートブラケットのネジ穴の中央に位置するように固定してください。
- 装置を搭載したときに上下に搭載されている装置とぶつかる場合は、取り付け位置の調整が必要になります。

7 本体前面が手前になるように持ち、本体側面のマウントブラケットをサポートブラケットに差し込む。

- 取り付けは1人でもできますが、なるべく複数名で行うことをお勧めします。
- 本体の上下に搭載されている装置とぶつかる場合は、いったん本体を取り出して、サポートブラケットの固定位置を調整してください。

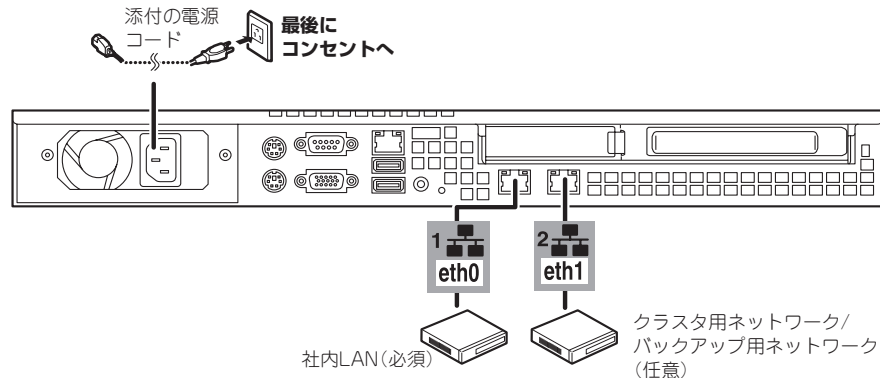
8 本体の前面をゆっくりと押してラックへ完全に押し込み、セットスクリューでラックに固定する。

5 ケーブルを接続する

本体背面にLANケーブルを接続した後、添付の電源コードを接続します。ユーザーズガイドの2章を参照してください。

重要　システムが割り振るLANポート番号(eth n・n=数字)は次のとおりです。

オプションのNICなし
- eth0: 1
- eth1: 2

オプションのNICあり
- eth0: オプションのNIC
- eth1: 1
- eth2: 2

また、デフォルトで通信用インタフェースとして割り当てられているポートは、eth0です(設定は初期セットアップの完了後、Management Consoleから変更することができます)。

引き続きシステムのセットアップをします。裏面をご覧ください。

6 インストール/初期導入設定用ディスクを作成する

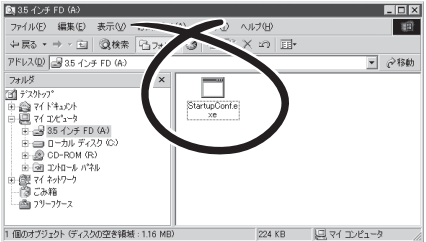
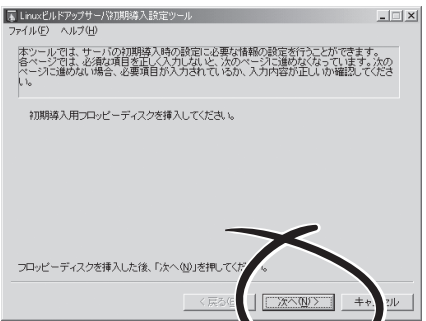
本装置を、Mail、Webサーバーとして運用するために最低限必要となる設定情報が保存されたディスクを作成します。添付の「インストール/初期導入設定用ディスク」とWindows XP、またはWindows 2000が動作するコンピュータを用意してください。詳しくはユーザーズガイドの3章「インストール/初期導入設定用ディスクの作成」を参照してください。

1 Windowsマシンを起動する。

2 フロッピーディスクドライブに添付の「インストール/初期導入設定用ディスク」をセットする。

インストール/初期導入設定用ディスクはライトプロテクトされていない状態にしてください。

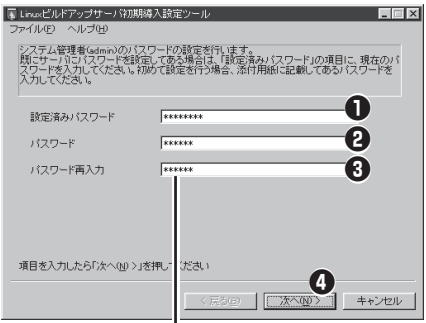
3 エクスプローラなどからフロッピーディスクドライブ内の「初期導入設定ツール(StartupConf.exe)」を起動する。

初期導入設定ツールが起動します。ツールはウィザード形式で進みます。入力した内容が間違っている場合は先に進めません。警告メッセージに従って入力内容を確認・修正してください。

4 [次へ]をクリックする。

5 管理PCから本装置にログインする際の管理者(admin)パスワードを設定する。

ここで入力したパスワードは、管理者(admin)でログインする場合に必要となります。パスワードを忘れたり、不正に利用されたりしないように、パスワードの管理は厳重に行ってください。

❶ 本装置に添付の「rootパスワード」に記載されたパスワードを入力する。

❷ パスワードを入力する。

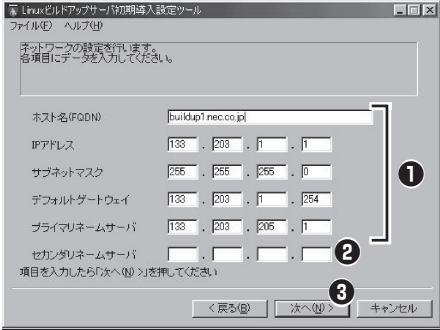
❸ ❷で入力したパスワードを入力してパスワードの確認をする。

❹ [次へ]をクリックして次に進む。

パスワードは画面に表示されない(「＊」で表示される)ため、タイプミスのないように注意する

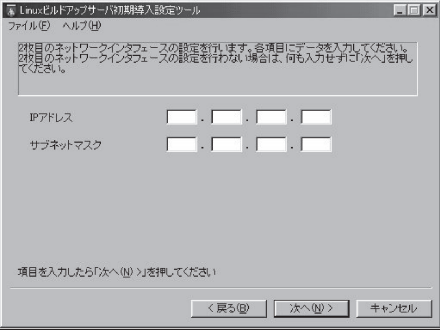
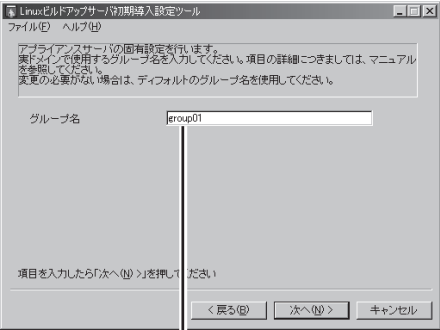
6 ネットワークの設定をする。

ここで設定する情報はLANポート1(システムからはeth0ポートとして扱われます)に対するものです。

❶ タイプミスのないように各値を入力する。

❷ セカンダリネームサーバが存在する場合のみ入力する。

❸ [次へ]をクリックして次に進む。

7 ネットワークの設定をして[次へ]をクリックする。

ここで設定する情報はLANポート2(システムからはeth1ポートとして扱われます)に対するものです。フェイルオーバクラスタ構成で運用する場合のみ設定します。

8 実ドメインのグループを設定し、[次へ]をクリックして次に進む。

1文字目は英数字、2文字目以降は英数字とハイフンからなる最大15文字の全小文字

<指定できない文字列>

adm、admin、apache、bin、canna、daemon、dip、disk、floppy、fml、ftp、games、gopher、kmem、ldap、lock、lp、mail、mailnull、man、mem、named、news、nfsnobody、nobody、nscd、ntp、pcap、root、rpc、rpcuser、rpm、slocate、smb、smbguest、smmsp、sshd、sys、tty、users、utmp、uucp、vcsa、wbmc、webalizer、wheel、wnn、xfs

9 本装置の動作モードを指定する。

❶ 通常の状態で運用する場合。

❷ ロードバランスクラスタ構成で運用する場合。

❸ フェイルオーバクラスタ構成で運用する場合。

❹ 指定したら、[次へ]をクリックして次に進む。

10 メール配送の設定をする。

❶ DNSで配送する場合。

❷ スマートホストを使用する場合。

❸ 直接配送するドメイン名(任意)。

❹ 指定したら、[次へ]をクリックして次に進む。

<スマートホストとは？>

ファイアウォールが設置されたイントラネット内にメールサーバを設置する場合などは、すべてのメールを特定のメールサーバを介して配送する必要があります。そのサーバのことを「スマートホスト」と呼びます。スマートホストを使用する場合でも、ファイアウォールの内側で、イントラネット用のDNSが設置されており、DNSによる配送が可能な場合は、「直接配送するドメイン名」にイントラネットのドメイン名を入力することでファイアウォール内に関しては、スマートホストを介さずに配送することができます。

なお、ファイアウォールのDMZ(非武装地帯)上のメールサーバのように、特定のドメインに対する配送ホストをDNSを使用せずに静的に決定する必要がある場合は、セットアップ完了後、Management Consoleを使用し、メールサーバの設定の「静的配送の設定」により設定します。

すべての入力が完了したら、設定した内容がインストール/初期導入設定用ディスクに書き込まれます。設定完了のメッセージが表示されるまでフロッピーディスクドライブから取り出さないでください。

インストール/初期導入設定用ディスクは再セットアップの際にも使用します。セットアップの完了後も大切に保管してください。

7 初期導入設定情報をロードする

インストール/初期導入設定用ディスクの内容を本体にロードして初期セットアップをします。詳しくはユーザーズガイドの3章を参照してください。

1 本装置のLANポート1コネクタ(eth0)とLANポート2コネクタ(eth1)がLANケーブルによりネットワーク環境として使用するハブに接続されていることを確認する。

2 ステップ6で作成したインストール/初期導入設定用ディスクがライトプロテクトされていないことを確認して、本体のフロッピーディスクドライブにセットする。

3 本体の電源をONにする。

セットアップを開始します。5〜6分ほどで完了します。

セットアップに失敗した場合は、自動的に電源がOFF(POWERランプ消灯)になります。

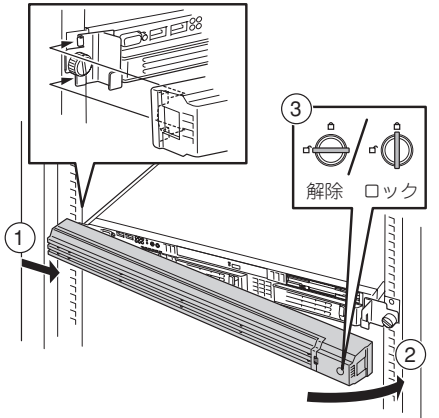
4 フロッピーディスクドライブのアクセスランプが消灯していることを確認して、インストール/初期導入設定用ディスクを取り出す。

5 Windowsの「メモ帳」などを使って、インストール/初期導入設定用ディスク内のログファイル(logging.txt)を開く。

ログファイルに「Info: completed.」と出力されていたらセットアップは正常に完了しています。

それ以外の出力(ログ)がある場合は、ユーザーズガイドの3章「システムのセットアップ」または7章を参照してトラブルの解決を試みてください。それでも解決できない場合は保守サービス会社にお問い合わせください。

6 添付のフロントベゼルを取り付けてセキュリティキーでロックする。

セキュリティキーは大切に保管してください。

8 システムにログインし、各種設定をする

クライアントPCのWebブラウザからネットワークを介してシステムにログインします。詳しくはユーザーズガイドの4章を参照してください。

1 クライアントPC上でWebブラウザを起動する。

2 Webブラウザの設定を確認する。

- プロキシを経由させない
- キャッシュ機能を使用しない

3 「アドレス(または場所など)」に「https://<本装置に割り当てたIPアドレスまたはFQDN>:50453/」と入力する。

4 [システム管理者ログイン]をクリックする。

5 ユーザー名に「admin」、パスワードにはセットアップ時に指定した管理者パスワードを入力する。

管理者用のトップページが表示されます。

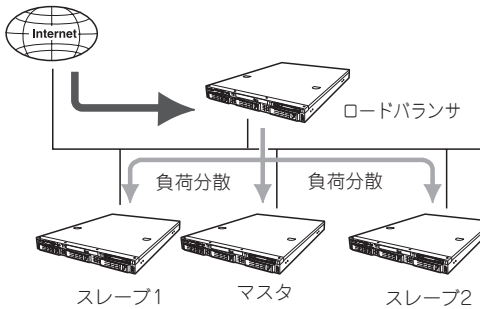
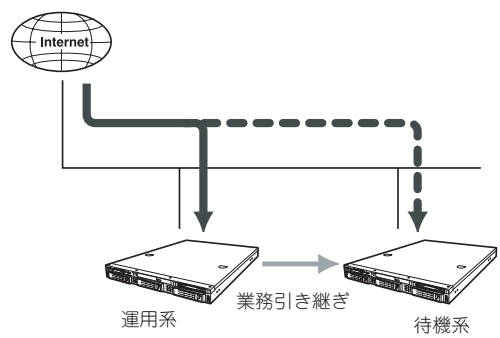
Webブラウザに表示された画面からさまざまなシステム設定ができます。

詳しくはユーザーズガイドの4章を参照してください。

また、下図のようなクラスタ構成を構築する場合は、3章を参照しながらManagement Consoleからセットアップをしてください(フェイルオーバクラスタ構成時には、別売のCLUSTERPRO Xが必要です)。

ロードバランスクラスタ構成

フェイルオーバクラスタ構成

Internet
運用系
業務引き継ぎ
待機系

9 ESMPRO/ServerAgentの設定をする

本体の状態を監視するソフトウェア「ESMPRO/ServerAgent」がインストール済みです。ファンやマザーボード、ハードディスクドライブ、本体の温度などを監視するこのソフトウェアの設定(しきい値やイベントの通報先)をします。

詳しくは、バックアップCD-ROMにあるESMPRO/ServerAgentユーザーズガイドを参照してください。

<バックアップCD-ROM>:/nec/doc/esmpro.sa/users_v394041.pdf (SATA HDD単体接続)
<バックアップCD-ROM>:/nec/doc/esmpro.sa/users_v42.pdf (SATA HDD単体接続以外用)

接続に使用するクライアントマシンによっては罫線が文字化けすることがありますが、それぞれの機能は問題なく動作します。

10 管理コンピュータのセットアップをする

本装置をネットワーク上から管理・保守するソフトウェアを管理コンピュータにインストールします。ソフトウェアは、本体に添付の「EXPRESSBUILDER (SE) CD-ROM」に含まれています。管理コンピュータのCD-ROMドライブに「EXPRESSBUILDER (SE) CD-ROM」をセットすると表示される「マスターコントロールメニュー」からそれぞれインストールすることができます。詳しくはユーザーズガイドの5章を参照してください。

【セキュリティパッチの適用について】

http://www.express.nec.co.jp/care/index.htmlに最新のセキュリティパッチがあります。定期的に参照し、適用してください。

以上で完了です。